

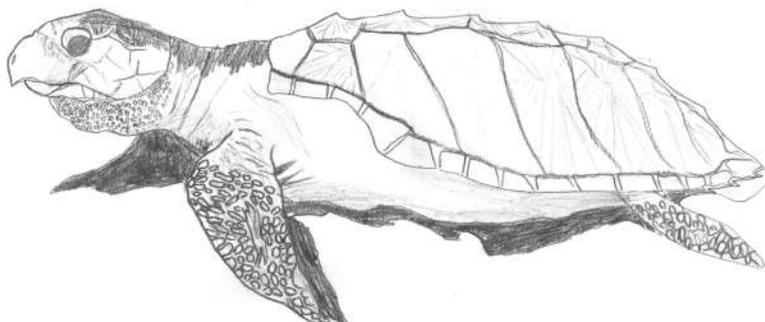
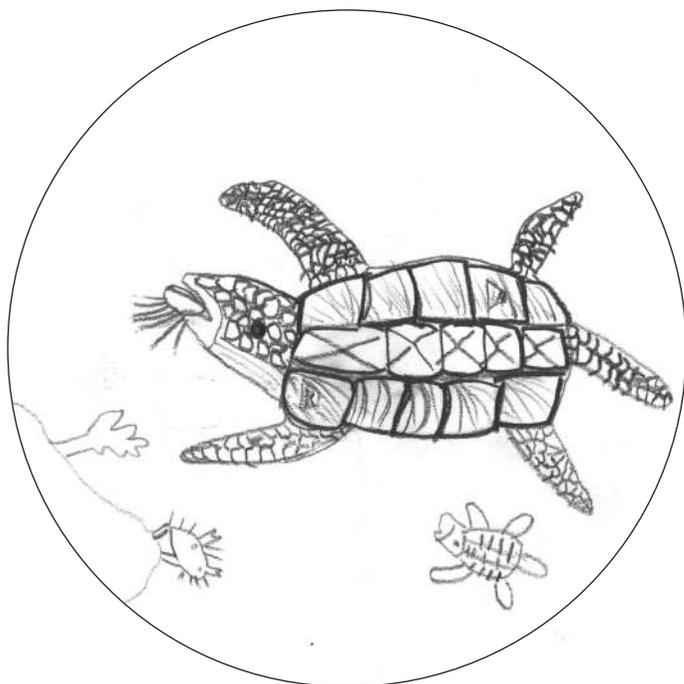


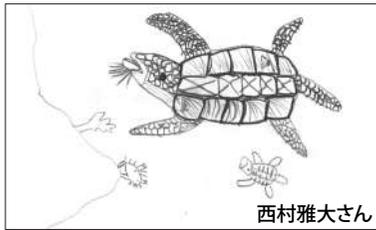
Marine Turtler

マリンタートル

特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会機関誌

第16号





西村雅大さん

表紙の絵 西村雅大さん & 西村涼大さん



西村涼大さん

今号の表紙のイラストは西村さん兄弟のイラストです。雅大さんはアカウミガメがクラゲを食べている様子を、涼大さんはケンプヒメウミガメを細密に描いてくれました。素敵なイラストをありがとうございました。

表紙の絵を募集しています！

皆様から表紙の絵を大募集しています。可愛いイラスト、リアルなウミガメ、ウミガメをモチーフにしたデザイン等々、ウミガメに関するものでしたらどんなものでも構いません。ウミガメを見る機会のある方や、日頃から深くウミガメに関わりのある方は、ぜひ一度描いてみてください。皆様からの素敵な絵をお待ちしております。

- サイズ: B5
- 色: 自由。(仕上がりはモノクロになります。)
- 期限: メ切はありませんが、次号の掲載をご希望の方は、お早めをお願いします。
- 応募方法: 大阪事務局に郵送又はメールでお送り下さい。
- 送付先: 〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302
日本ウミガメ協議会 マリントートルー編集部
※メールの場合は info@umigame.org まで
件名に「マリントートルー表紙」と明記の上お送り下さい。

会報の名称マリントートルー(Marine Turtler)は、英和辞書には載っていません。つまり、教育的にはあまり相応しい英語とは言えません。ただし、米国では、最近ウミガメ関係者をこう呼ぶことがあります。ウミガメを守りたい人や、ウミガメを研究したい人、立場上仕事でウミガメに関わるようになった人、ウミガメが好きな人など、ウミガメに関わる全ての人を、我々はマリントートルーと呼ぶことを提唱したいと思います。



Contents

ウミガメ基礎講座 15	3P
「カメの尻尾」	
松沢慶将	
マリントートルー列伝	4P
「志布志のカメ親父、大和隆信さん逝く」	
亀崎 直樹	
ウミガメの民俗 10	5P
「東日本大震災被災地のウミガメの民俗」	
—ウミガメ祭祀・供養を中心に—	
藤井弘章	
第21回 日本ウミガメ会議(田原会議) 報告	7P
水野康次郎	
悠ちゃんプロジェクト2010	9P
経過報告 & 悠ちゃん義肢基金	
Marine Turtle Divers Projectからのご報告	11P
インターンシップ報告	12P
事務局の主な動き	13P
ご寄付を頂いた方々	14P
Seaturtle goods shop	
STSmembers募集中! & STSmembers更新手続きについて	
編集後記	

「カメの尻尾」

先日、車を洗っていたら、脇で娘がトカゲを捕まえた。不意に「ホラッ」と差し出され、受け渡しにもたついている間に、自切を許して逃がしてしまった。そう、トカゲの尾椎の中間には自切面とよばれる弱い面があり、危険を感じると筋肉の収縮によりこの部分が破断し、尻尾が切断される。切れた尻尾が激しく動き注目を集めている隙に、その場から逃げ去るという戦略だ。いわゆる「トカゲのしっぽ切り」である。

トカゲの尻尾は切れても再生されるので、そう気にもならないが、これがウミガメだったらと妄想してみると、かなり大変なことになりそうである。概してカメの尻尾は他の爬虫類に比べて短い、オスでは成熟に近づくと長く太く発達して、ウミガメでは人の腕ほどの大きさになるものもいる。他の爬虫類と大きく異なるのは、成長するにつれて、総排出腔の開口部が尻尾の付け根から遠ざかり、全体として先端の方に来るという点である。そして、尻尾の伸びた部分には、比較的長いペニスも含め、いろいろと複雑な器官が格納されている。切れたら、もちろん再生は難しい。一大事である。

ちなみに、トカゲやヘビのオスは、尻尾の付け根に開口する総排出腔に「ヘミペニス」とよばれる小さな袋状の交尾器を1対収納しており、交尾の時にこれを反転させて露出させる。彼らは、足や尻尾をちょいとねじれば、容易にオスとメスが互いの総排出腔開口部を向き合わせて精子の受け渡しができるのに対して、カメでは硬い甲羅が邪魔となる。そこで、カメのオスは尻尾を長くし、なるべく先端に近いところからペニスを伸ばすのである。

オスほどではないが、メスもすこしだけ尻尾に隠している秘密がある。産卵を控えたメスのアカウミガメたちは、産卵地の地先でお気に入りの居場所を巡り互いに争うことがある。この様子を繰り返し観察した研究によると、直接攻撃が始まる前に、メスたちは互いに相手を追尾するようにしながら回転し、しばらくしてどちらかが逃げ出せば、身体的な衝突には至らない。で、先に逃げ出した方は、必ず尻尾を丸めていたというのだ。犬や猫は、恐怖心を感じたときに、尻尾を足の間にはさんだり、おしりの方に丸めたりすることはよく知られているが、まさにこれと同じで、尻尾を巻いて逃げる

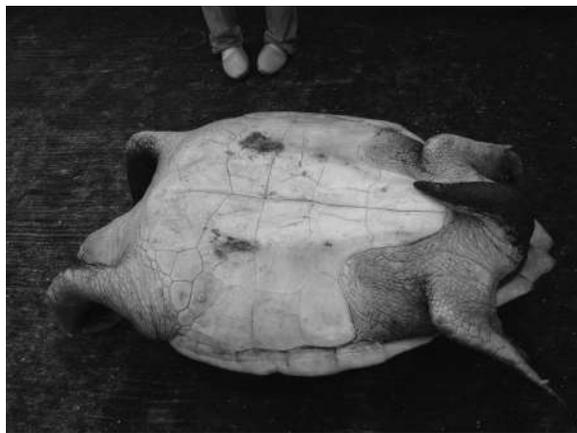
のである。

ヒトは四足動物の中では珍しく、尻尾が退化している。おかげで、ちょん切れたときの心配もなくて済むし、巻こうか、振ろうか、悩まなくても済む。ただ、最近、急激に腹が出てきて体も硬くなってくると、カメのオスの尻尾の成長を見て、心穏やかではない。

(了)



アカウミガメの尻尾の先から露出したペニス



オスも陸上でひっくり返されて「降参」？

松沢慶将

「志布志のカメ親父、大和隆信さん逝く」

亀崎 直樹

大和隆信さんが亡くなられたのは2010年の7月9日のことだった。急性白血病。弱音をはかない大和さんは6月下旬まで、砂浜に出ていたという。ウミガメの産卵シーズンの真っ盛り。大和さんのことだから、さぞかし産卵のことが気になりながら、逝かれたのだと思う。

志布志湾は大隅半島の東側の付け根に延びる全長15kmの海岸である。学生時代、ウミガメにさほど興味を持ってなかった私は、バスを乗り継いで、その海岸で数泊過ごしたことがある。ウミガメには出会うことができなかったが、砂の量が豊かな砂浜でのキャンプは心地よかったことを記憶している。丁度、志布志湾に石油備蓄基地が出来ることが発表されたこともあって、本能的にその開発計画に反対した頃でもあった。丁度、その頃、大和さんは20才代後半、志布志湾でバッチ網(小型のトロール網)を曳いていた。ムシロが沢山並べられており、その上にはシラスが干されていた。白いシラスが黒くなる程、大量のハエがたかっており、少し、シラスを食べるのがいやになったことを覚えている。

ウミガメ屋は様々な形でウミガメというアリ地獄にはまり込んでいくが、大和さんの場合は小学校でのボランティア活動だった。大和さんは水泳が得意で、高校を卒業して父親の漁船にのっても小学生に水泳を教えていた。そんなある日、その子ども達とウミガメの卵を保護し、子ガメを見送る。当然、子ども達は目を輝かせる。子ガメの魅力は、いろんな人間を魅了して、献身的な活動に向かわせるが、大和さんもその一人だった。1988年頃から、朝2時には浜に出て、カメを探すようになったらしい。

実のところ、いや、今もそうであろうが、鹿児島県においても志布志湾のウミガメは目立ってなかった。屋久島があるし、さらには吹上浜でも多くの産卵があるので、志布志湾は注目されることは少なかった。大和さんの存在やその活動を知ったのも1990年代の後半だったと記憶している。初めて、大和さんに会いに志布志にいったのも、丁度、その頃であった。鹿児島空港に鹿児島大学ウミガメ研究会の面々に迎えに来てもらい、そのまま南下して大和さんのお宅に伺った。国道沿いに海産物のお店があり、そのお店が大和さ

んの自宅だった。

出てきた大和さんは・・・、正直言って黒かった。頭髪は強いパーマがかかっている、唇は厚かった。怖い漁師さん、という印象だった。昔、ウミガメの資料が少ない時代、ウミガメ屋は独自のウミガメ学を構築していくのだが、大和さんもその学問をかなり究めていた。卵の数や孵化率、同じ個体が何回も産卵に来ること、砂浜の同じ場所に再度産卵することが多いこと、などをかなり正確に語ってくれたことを思い出す。帰り際、大和さんは沢山のおみやげをくれた。大和さんの獲った干したシラスである。昔を思い出して、天日で干したのかどうかをきいたら、今は機械で湯かすのだそうだ。シラスの他に、小さなクロホシイシモチの干物ももらった。かわいい、赤い魚だ。潜ると群をなしている。出汁をとるのか、そのまま食べるのか、良く分からなかったが、小さなクロホシイシモチの命も大切にして食物にする大和さんをみた気がした。後日、子どもの弁当のご飯の上にその魚を並べて持たせたら、友達から「きゃあ、金魚がおかず」とからかわれたという親子の思い出も作ってくれた。

その後、大和さんは正確なウミガメに関するデータを日本ウミガメ協議会に送ってくれるようになる。使う名前は志布志のカメ親父。そのデータには必ずカメ親父の考察も加えられていた。

大和さんは日本ウミガメ会議にも何回か来ていただいた。第18回の種子島会議、そして第20回の宮崎会議には小学生を率いて来てくださった。いつもドタバタしてゆっくりお話しすることができなかったことが悔やまれる。昨年秋、鹿児島県に出かけた折に、そのお店に焼香に伺った。帰り際に、再び奥さんからシラスをいただいた。少し大きく育ったシラスで、味がしっかりしたシラスだった。ひよつとしたら大和さんが獲ったシラスでは、と思って芋焼酎を口に含んだ。合掌。



「東日本大震災被災地のウミガメの民俗」 —ウミガメ祭祀・供養を中心に—

藤井弘章

2011年3月11日午後2時46分、東北地方太平洋沖で、マグニチュード9という巨大地震が発生。東北地方から関東地方にかけての太平洋沿岸には、その直後から地震によって引き起こされた大津波が何度も襲いました。多くの人命が失われ、集落ごと流されてしまった地域も多く、復旧・復興にはまだまだ時間がかかりそうです。また原発も大きな被害を受け、未だにその事故は収束していません。未曾有の大災害です。被災された方々には、謹んでお見舞い申し上げるとともに、1日も早い復旧・復興を祈りたいと思います。自分にできることは限られていますが、そのひとつとして、被災前に調査したウミガメの民俗について紹介することで、被災地における民俗の継承と発信に少しでも役立てればと思っています。

今回の被災地は、ウミガメにとっては、縁が薄い地域と思われるかもしれませんが、たしかに、太平洋側ではアカウミガメの産卵は、福島県南部までといわれています。ところが、それより以北でもウミガメは回遊しています。むしろ、東北地方の漁民にとっては、ウミガメは大漁を祈願する存在であり、親しみがある海の生き物であったようです。

以前、マリナーターラー9号に「江戸時代のウミガメ供養1 一宮城県七ヶ浜町「亀霊神社」の成立—」という文章を書かせていただきました。七ヶ浜の漁民が、ウミガメに酒を飲ませて放しますが、そのカメが死んでしまったので埋葬しました。その後、修行者が訪れて、このカメを祀るようと言われたために、今に至るまで、その漁民の家ではウミガメを祀り、そのカメが持っていた貝を宝物として大切にしています。この事例は、当時の記録、資料とともに、伝承も伝わっているため、とても貴重で興味深いものです。

しかし、東北地方には、このほかにも同じような例が多数あります。宮城県石巻市の牡鹿半島の先に、網地島という離島があります。この網地島には、享保11年（1726）の「霊亀塔」があります。私は、日本全国のウミガメの祠・墓を調べてきま

したが、現存するものとしては今のところこれが最も古い事例です。この由来は、次のようなものでした。地元の漁師が数尺もある大きなカメを拾い上げたため、持ち帰って脂を取ろうとしますが、カメの寿命は長いというので思いとどまります。しかし、カメは死んでしまったため、地元の和尚に供養してもらい、「霊亀塔」を建てました。伝承はあまり伝わっていませんが、「霊亀塔」の隣に立っている石碑に書かれた漢文で、その由来を知ることができます。

岩手県釜石市唐丹小白浜の盛岩寺境内にも江戸時代のウミガメ供養塔があります。これは、文政12年（1829）に建てられたものです。地元では、「鶴亀の碑」と呼ばれています。由来は次のようなものです。小白浜の網にカメが入ったため、盛岩寺の池に放しておいたところ、鶴が舞い降りたといいます。江戸時代、この唐丹は伊達藩に所属していました。鶴は藩の命令で仙台城まで運ばれましたが、カメは放置され、翌年の春には死んでしまいました。そこで、地元の人たちは、このカメを寺に埋葬し、石碑を建てました。この石碑には漢文で由来が記されています。

このように、少なくとも江戸時代には、東北地方各地ではウミガメを埋葬し、供養する習俗があったことが分かります。ただし、これらは石碑に由来が記されていたり、古文書が残っていたりしたために、今までウミガメの供養塔として伝わっているものです。いわば、偶然が重なった結果といえるでしょう。ところが、ウミガメを祀る習俗などというものは、記録が残らないものも多いのです。また、形状が石碑ではなく、木できていたりすると、朽ちてしまって、なくなってしまうこともあります。宝暦11年（1761）の『奥州里諺集 四』には、50年ほど前、宮城県気仙沼市大谷の漁民が、出漁中に大きなウミガメが死んで漂流しているのを見つけて持ち帰り、街道の脇に埋めたが、今ではその柵も朽ちてなくなった、と書かれています。このように、たまたま記録が残っても、ウミガメを祀った墓はなくなってしまい、伝

承も消えてしまうものも多かったと思われます。

東北地方には、明治以降もウミガメの墓が建てられています。岩手県宮古市蛸の浜の墓地の入り口には明治25年（1892）、宮城県南三陸町戸倉滝浜には明治38年、岩手県久慈市久喜の墓地の入り口には大正14年（1925）のウミガメの墓があります。昭和以降も次々と建立されています。岩手県宮古市蛸の浜の墓地の入り口には昭和4年（1929）の墓もあります。岩手県釜石市箱崎白浜には昭和6年、岩手県岩泉町茂師には昭和13年、宮城県南三陸町長清水には昭和17年、福島県いわき市中之作には昭和13年、福島県南相馬市鳥崎には昭和39年、茨城県北茨城市大津には昭和46、58、平成13年（2001）の墓があります。岩手県普代村堀内にも、昭和30年ごろに建てられたウミガメの供養塔がありましたが、今ではなくなっています。岩手県宮古市重茂石浜には、ウミガメを祀った木の祠がありましたが、今ではなくなっています。

このようなウミガメの墓や祠を作る漁民の心意はどのようなものがあるのでしょうか。東北の漁民にお話をうかがうと、おおよそつぎのように語られることが多いです。ウミガメが定置網などにかかる、酒を飲ませて甲羅に船名や「大漁祈願」などと書き、「大漁おさずけ」などと声をかけて放したといいます。そして、ウミガメが死んでいた場合には、持ち帰って埋葬し、供養塔や祠を作って祀ったというのです。宮古市赤前出身の大謀網（定置網）の元網元は、次のように語ってくれました。三陸に回遊するウミガメは暖流のピーク時の8月ごろに来るが、このころは暖寒流の端境期で魚の群れが薄く、大漁を待ちあぐんでいる。そうしたときに、網にカメが入ると吉兆として神様扱いをすることになるといいます。東北地方では、ウミガメは多くはないと思われます。珍しいために、捕獲して利用しようとする動きはごく一部に限られ、ウミガメを大漁のシンボルとして喜ぶ風潮が広がってきたと考えられます。一方で、死んだウミガメをそのまま放置するとよくないから、それを祀ることで大漁へと転換させるという意識もあったようです。

今回取り上げた地名は、残念なことですが、大震災のために、連日報道でよく耳にする機会が多くなっています。お話をうかがった方々がどうなさっているのか、集落はどうなっている

のか、とても気になっています。ウミガメの供養塔などは、海辺にあるものも多いですから、おそらく今回の大津波で流されたものもあるのではないかと思います。この地域はたびたび津波に襲われてきました。近いところでは、明治29年がありますし、昭和8年、35年の津波は人々の記憶にも残っています。こうした津波に見舞われ、そのたびに多くの人命や家屋、文化財なども流されてきましたが、ウミガメの伝承は少なくとも江戸時代から連綿と継承されてきています。個別の供養塔は流されたものもあるでしょうが、大きな目で見ると、東北の漁業の復興とともに、またあらたなウミガメの民俗が継承されていくことでしょう。

最後になりましたが、宮城県気仙沼市市街地にお住まいで、全国の海の民俗を精力的に調査されていた民俗研究者の川島秀一氏も東北のウミガメの民俗をまとめておられます（川島秀一「東北太平洋岸のウミガメの民俗」『東北民俗』38、2004年）。ご自宅とともに、膨大な収集資料が流されたことと思いますので、きわめて残念で悔しい思いです。今回の震災で東北沿岸の民俗がどのように変化、継承されていくのか。川島氏にもまたぜひ教えていただきたいと願っています。



写真1
岩手県釜石市箱崎
白浜の「亀供養」石碑



写真2 「亀供養」の全景
(港の入り口の八大龍王の横にある)
※1・2ともに、2000年7月31日、筆者撮影

水野 康次郎

毎年、全国各地で開催されている日本ウミガメ会議ですが、今回は2010年11月26日からの3日間、愛知県の田原市で行われました。田原市は渥美半島の西側に位置し、表浜の西端にもなります。会議の会場となったのは、渥美半島先端近くにある田原市市民会館です。また懇親会は、岬の先端にある景色のいい伊良湖ガーデンホテルでした。今回の会議はこの会場に、全国各地から3日間でのべ約800名もの参加があり、盛大におこなわれました。

会議は全国のウミガメ関係者によるウミガメ出前講座に始まり、1年ぶりの交流となる前夜祭、毎年恒例の全国のウミガメ情報のとりまとめ報告、オーエン先生による特別招待講演「ウミガメの産卵と生物学」、口頭やポスターによるウミガメの研究発表、遠州灘のウミガメの保護を考えるシンポジウム、夜中まで盛り上がっている大懇親会など本当に盛りだくさんでした。なかには時間が押したりするような不手際もあり、なにかとご迷惑もおかけすることあったかと思いますが、終了後には楽しかったというお言葉もいただき、本当にありがたく思います。

今回も会議をおこなうにあたり、多くの企業や個人の方々にご支援や後援をいただきました。皆様、ご協力をいただき本当にありがとうございます。また、今回のご参加いただきました皆様、これを機に、機会を作ってぜひ表浜や渥美半島の方にお越しいただき、砂浜や渥美をゆっくりと見ていただければと思います。

次年度の日本ウミガメ会議は鹿児島県の沖永良部島での開催となります。ちょっと普通に行くには飛行機の乗り継ぎや船になるためアクセスは大変です。しかし海がきれいで、陸上から野生のウミガメが泳いでいるのが普通にみられるポイントもあります。みなさまぜひお誘いの上、ご参加ください。また皆様には、今年もウミガメ会議の運営のためのご協賛をいただければ幸いです。

■会議詳細

名称 渥美半島においでん!第21回日本ウミガメ会議(田原会議)
主催 日本ウミガメ協議会・田原会議実行委員会
後援 国土交通省・環境省・水産庁・愛知県・愛知県教育委員会・田原市・田原市教育委員会
田原市商工会・渥美商工会
参加者数 のべ800人(受付をされなかった地元無料参加者等は除く)
ウミガメ出前講座 4か所の小学校(1年~6年)で計534名に対して実施
インターネット中継 約400-アクセス(27日・28日)

■会議の流れ

初日(26日)
前夜祭(県外及び地元との交流会)
二日目(27日)
午前 開会式/シンポジウム1 2010年日本のウミガメ状況(今年度の状況産卵・孵化率・着・標識・再発見)
午後 集合写真撮影/ポスター発表/シンポジウム2ウミガメの産卵と生物学(特別招待講演 デビッド オーエン教授)/口頭発表セッション1
夜 大懇親会
三日目(28日)
午前 口頭発表セッション2/シンポジウム3(遠州灘のウミガメ保護を考える)
午後 口頭セッション3/閉会式



シンポジウム&口頭発表会場

ウミガメ出前講座



ポスター発表会場



David William Owens 博士

悠ちゃんプロジェクト2010

2008年、鯨に両手を食べられてしまった悠ちゃんは、2009年6月より人工ヒレの装着試験をおこなっています。悠ちゃんはこれまで人工ヒレを装着すると、遊泳速度が落ちてしまいましたが、数日経過すると遊泳速度が速くなり、人工ヒレをうまく使う泳ぎ方を覚える事が判明しました。今シーズンも昨年の反省点を踏まえ、新しい人工ヒレの開発と挑戦が始まります。



6月20日、昨年の人工ヒレ装着方法を大きく変更した新しい装着方法の試験が実施されました。試験は装着、脱落、補正の繰り返しで、新しい装着方法にはまだまだ課題が残りました。7月19日にはヒレに直接装着する装着型から、ウミガメに負担ならないように人工ヒレのヒレ部分と断端部を懸垂する懸垂型へと変更されました。実験によりボディジャケットとヒレをどうつなぐ(懸垂する)かが大きな課題となりました。

9月11日、今回は前回のようにヒレが外れてしまうことはなくなりましたが、より悠ちゃんが動きやすいように動きしろのバランスを考える必要があります。また、人工ヒレに浮力があるため、海中で人工ヒレを装着した悠ちゃんがまるで万歳しているかのように浮いてしまいました。浮力調整する必要があります。その他、東大佐藤研究室チームはデータロガーを用いて悠ちゃんの遊泳速度などを測定しました。



12月12日、今シーズン初めは失敗続きの装着試験でしたが、遊泳速度等の解析を行っている東大チームからの報告では、人工ヒレを装着した悠ちゃんが時間の経過とともに遊泳速度が上昇しているのでは?という報告がありました。つまり、悠ちゃんは時間の経過とともに人工ヒレに順応し、速く泳げるようになるという訳です。阪大チームからウミガメの遊泳のためにはヒレの上下運動とひねり運動が重要で、人工ヒレ装着直後ではひねり運動がヒレなしの状態より悪くなるという報告がされました。これから同園での悠ちゃんの経過が楽しみとなる報告となりました。

2010年経過報告

- 3月17日 第6回人工ヒレ開発プロジェクト会議を行いました!
- 4月24日 悠ちゃん須磨海浜水族園へお引越し!
- 5月24日 第8回人工ヒレ開発プロジェクト会議を行いました!
- 6月20日 悠ちゃん神戸空港人工池ラグーンへ引越し&人工ヒレ装着試験開始!
- 7月19日 人工ヒレ装着試験&第10回人工ヒレ開発プロジェクト会議を実施
- 9月11日 人工ヒレ装着試験&第11回人工ヒレ開発プロジェクト会議を実施
- 10月17日 人工ヒレ(第8モデル)の装着試験を行いました!
- 12月4日 悠ちゃん、須磨海浜水族園大水槽へお引越し!
- 12月12日 人工ヒレ装着試験&第12回人工ヒレ開発プロジェクト会議を実施



携帯ストラップ&キーホルダー好評発売中!
各1個700円



ソフトラバー素材の携帯ストラップ&キーホルダーです。立体に浮き出た悠ちゃんイラストがポイント!

前ヒレをなくしたウミガメを助けて!

悠ちゃん基金にご協力お願いします!

前ヒレをサメに食いちぎられたアカウミガメの「悠ちゃん」!
このウミガメがまた元気に泳げるようにしてあげたい!
専門家の方々をメンバーに加え「悠ちゃんプロジェクト」が始動しました。
人工ヒレを作るのは困難ですが、悠ちゃんにぴったりのヒレを作れるよう、
「悠ちゃん基金」にご協力お願いします!!

振込み口座はコチラ



池田泉州銀行 枚方北支店
店番号: 045 口座番号: 0540977
口座名: ウミガメ義肢基金 代表者赤井絵里香
カタカナ: ウミガメギシキキン

ゆうちょ銀行
口座番号: 00900-1-170710
ウミガメ義肢基金 カタカナ: ウミガメギシキキン

Marine Turtle Divers Projectからのご報告

三井物産環境基金の助成を受けて活動していた本プロジェクトも、無事に助成期間が終了しました。皆さん、ご協力いただき本当にありがとうございました!2008年4月から2010年9月まで集まった写真は、東京から沖縄まで1都7県の59地域で1496枚に及び、同一個体を省いた個体数は583個体となりました。写真より種の割合をみると、アオウミガメ81% (418)、タイマイ9.5% (49)、アカウミガメ8.8% (45)、ヒメウミガメ0.2% (1)、その他0.2% (1)となり、明らかにダイビング中に見るウミガメはアオウミガメが優占していることが分かりました。写真の解析はまだまだ終わっておらず、この集まった写真からいろんな事が分かると思います。どんどんウミガメの写真を増やし、様々な解析を行っていきたいと思います。これからも継続して写真を受け付けていますので、ぜひとも本プロジェクトにご参加下さい。



ウミガメの海中写真をお送りください



本プロジェクトには水面で撮られた写真もいただいております。この写真は水面で交尾するアオウミガメです。自然での交尾の行動はまだ分かっていないことが多いので、こういった写真があつまることでまた何かわかってきそうです。

ウミガメの写真なら何でもOKです!!

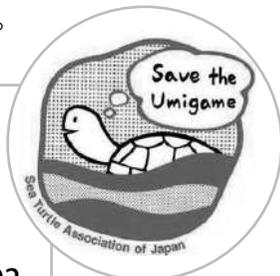
たとえウミガメが小さく写っている写真でも周辺の環境を知ることができます。日付、場所、水深などのデータがあれば送って下さい。この企画に寄せられた写真の中から、ウミガメの生物学上貴重な写真、芸術的に優れた写真を選び、「えこがめ賞」と「うみまーる賞」として表彰させていただきます。

●応募はメールまたは郵送をお願いします

NPO法人 日本ウミガメ協議会
「マリンタートル・ダイバーズ・プロジェクト」係 まで

■メール diver@umigame.org

■郵送 〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302



応募者全員に
Save the Umigame
ステッカーをプレゼント

インターンシップ報告

インターン活動報告 浜村えり

私は協議会でインターンさせて頂きながらウミガメには関わらず、もっぱら淡水ガメに夢中でした。外来種でありながら日本に多数生息するミシシippアカミガメを主に扱い、避妊手術を施すことで殺さず数を減らすことを目標に四苦八苦して活動していました。が、その一方で日々どんどん飼育放棄されていくカメ達と飼い主の姿を見てみると、根本的な、動物とヒトとの、自然とヒトとの関係性に疑問を持たずにはいられませんでした。世間ではエコ、エコと言われていますが、電気をこまめに消すより、水道をしっかりと閉めるより、まず目の前の命を大切にせず、何がエコなのでしょう。とても考えさせられることが多かった貴重なインターンでした。



インターン活動報告 マレーシア・トレンガル大学 シュウ・ワン

私は日本ウミガメ協議会で3ヶ月間のインターンシップをおこない、ウミガメの保護分野におけるさまざまなスキルを身につけることができました。室戸基地では、ジャンボタグの装着や解剖、みなべ基地では、地元住民とともに産卵個体数の調査のため夜間パトロールを行いました。さらにタグ付けと甲長測定に加え、産卵巣の見つけ方と卵の移植方法を教わりました。また、多くの研究者、保護活動家と教育者に出会う機会があり、私自身の人脈を広げることができました。今回の機会を通じて、私が参加しているマレーシアのウミガメ保護団体 SEATRU と日本ウミガメ協議会との間で、ウミガメ保護への取り組みに関する交流を行う手助けになればと思っています。個人的な感想として、個人のスキルは確実に進歩し、同時に新しい国の雰囲気と文化を楽しむことができました。また今回のインターンシップで私自身の視野が広がることができ、ウミガメ保護分野に関する課題と解決策を知ることができました。今後もこの分野で一層がんばっていかうと思っています。



インターンシップ報告 大阪府立大学 鶴田祐士

「日本ウミガメ協議会」は、生き物好き・特にカメ好きにはたまらない所です。この団体の魅力は、人の温かさとうみガメにあると思います。普通では触る事すら制限されるウミガメを、僕は誰よりも近くでみる事ができました。特に、夏の満天の星空の下で、ウミガメの産卵と孵化を見ることが出来たのは、僕には一生忘れられないくらいの思い出でした。実際にフィールドに出てみて、僕はウミガメそのもの、またウミガメを取り巻く環境にすごく興味を湧きました。また、インターン先の方々はもちろん、生物好きの志を同じくする学生やカメ研究の先輩、海外の学生や世界で活躍する研究者など、本当に色々な人と知り合うことができました。



インターン募集中!

実際に就職する前に、あるいは在学中に休学する形で、当会のスタッフになっていただき、業務を学んでいただくことができます。文書の作成、フィールドワーク、データの収集管理など、日常の業務を身に付けていただけます。また、インターンシップの過程で、適職を見つけ就職されることも可能です。

- 4月23日 お腹に卵を持ったアカウミガメ、アルゴス発信機を装着し海へ!
- 4月27-29日 インド・ゴアで行われた国際ウミガメ学会に参加してきました!
- 4月29日 田原会議(第21回日本ウミガメ会議)実行委員会結成!!
- 4月30日 那覇市で毎年恒例の「亀人会」が開催されました!
- 5月8日 お腹に卵を持った発信機付アカウミガメ、Sumakoの最新情報です!
- 5月15日 徳島県アカウミガメ上陸産卵調査講習会を開催しました!
- 5月18日 淡水カメ調査研究活動始動!
- 5月23日 種子島に出張しました!
- 5月28日 お腹に卵を持った発信機付アカウミガメ、Sumakoの最新情報です!
- 5月30日 マレーシア・トレンガヌ大学のファジール先生来日!
- 6月11日 2010年2回目の協議会ゼミを行いました!
- 6月12日 第18回 テクテクドンドン 水・ふれあい環境フェスタに参加しました!
- 6月16日 あのアカウミガメまた現る!
- 6月18日 愛知県田原市伊良湖岬中学校において講演を行ってきました!
- 6月19日 日立環境財団賞を受賞しました!!
- 6月25日 成ヶ島にて今年初のアカウミガメの産卵を確認!
- 7月25日 イルカさんのコンサートにブース出展してきました!
- 8月29日 カメ DE Show in 大阪にブースを出展してきました!
- 10月16日-29日 名古屋のCOP10イベントに出展!
- 10月24日 イルカさんのコンサートにブース出展してきました! part II
- 11月26日-28日 第21回日本ウミガメ会議(田原会議)開催!
- 12月4日 ラグーンに収容していたアカウミガメ3頭を放流しました!
- 12月9日-11日 エコプロダクト2010に出展してきました!



(株)アール.エス 池田希 伊崎麻里 エコポイント事務局 エムズディーエス 太田英利 大野アロハピクニック実行委員会 岡安梢 奥田恭子 大森翼 (株)海神亀 (有)回船問屋 木村ジョンソン 九埜勝家 串本海中公園センター 野村 恵一 小林雅人 米田耕作 近藤康男 阪本登 清水紀代美 シャディ(株) 住宅エコポイント事務局 シンクジアース (有)ジュネ 末永路 損保ジャパン 種子島ハウオリ 大地昭 塚田津恵子 (財)名古屋みなと振興財団 南知多ビーチランド ニシドトヨハシ (西土浩史) 日新堂印刷(株) 波多野真樹 端田宏子 NPO 法人パブリックリソースセンター フジワラヨウコ (株)ホテルマネージメント(日航アリビラ) 堀越和夫 前田直美 増永望美 丸山一子 モリノカズノリ ヤフー(株) 山田輝一 ライオン株式会社 リコー販売株式会社神奈川支社

(順不同・敬称略)

Seaturtle goods shop



ウミガメカプセルトイ ¥400

日本ウミガメ協議会と奇譚クラブとのコラボレーションで誕生したカプセルコレクション「日本のうみがめ」シリーズ。細部のディテールにまでこだわり、リアルに表現したフィギュアです。種類は甲羅のフジツボがとてもリアルなアカウミガメ、ヒレから甲羅まで細やかな彩色で再現されたアオウミガメ、クラゲの透明感と力強く泳ぐ表情が秀逸のアオウミガメ(幼体)、光沢感のある甲羅が美しいタイマイの四種です。※設置協力店を募集しています。ご興味のある方は事務局までご連絡下さい

ウミガメスポーツタオル ¥1,500

協議会オリジナルタオルに新柄が登場!ネイビーカラーにかわいいウミガメのイラストが入ったインパクトのあるデザインです。肌触りバツグンのシャーリング加工を施した素材に、幅40cm×長さ115cmの大き目サイズサイズなので色々なシーンで活躍してくれます!



インターネットでお買い物

うみがめグッズがインターネットショップからご購入いただけます。オリジナルグッズのご購入はもちろん、会費のお支払いやご寄付にもご利用いただけます。お支払いは代引き、各種クレジット、ネットバンキング、当会イーバンク口座等からお選びいただけます。

<http://seaturtle.shop-pro.jp>

携帯電話でお買い物

モバイルショップからもアクセスしていただくことができます。下記のアドレスから、または右のQRコードを読み取ってご来店ください。



<http://seaturtle.shop-pro.jp>

◆ STSmembers募集中!

STS(SeaTurtleSupport)membersは、ウミガメと共に生きていける自然、環境について考え、その研究・保護活動に協力する人々の集まりです。日本ウミガメ協議会では、当会をサポートして下さるSTSmembersを随時募集しております。皆様のお知り合いで、自然が好きな方、海が大好きな方、ウミガメに興味をお持ちの方がおられましたら、是非入会をお誘い下さい。

入会金：なし、年会費：個人会員3,000円、学生会員1,000円、団体会員10,000円、特別会員100,000円
会員特典： オリジナル会員証&グッズ、機関誌

◆ STSmembers更新手続きについて

これまで会員更新の書類は、マリンタートラーに同封しておりました。しかし今後は、会員期限終了月に更新のご案内を送付させていただきます。会員の皆様のご支援で、ウミガメやそれを取り巻く環境を保全してゆくことができます。更新月を迎えられる会員の皆様は、是非とも更新して頂ければ幸いです。今後とも当会をよろしくお願い致します。

なお、すでにご登録いただいている内容に変更がございましたら当会までご一報ください。

編 集 後 記

2010年度はインド南西部ゴアにて行われた国際ウミガメ学会の参加に始まり、お腹に卵を持ったアカウミガメSumakoのアルゴス発信機による追跡や、ますますバージョンアップした悠ちゃん義肢プロジェクト、そして愛知県名古屋市で行われたCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)の開催まで、生物の保全や地球環境の将来について注目を集めた年になりました。またイルカさんのコンサートや初出展のカメ DE Show in 大阪等のイベントでは、ウミガメ好きな方々にたくさん声をかけていただいたり、皆さんのあたたかい応援も実感できました。2011年もウミガメの調査や研究、イベント出展等、ますます会員の皆様とのコミュニケーションの場を広げて行きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

編集担当：宮原尚子

マリンタートラー(日本ウミガメ協議会機関誌)

発行日 2011年9月30日
発行 日本ウミガメ協議会

〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302

電話：072-864-0335 Fax：072-864-0535

URL <http://www.umigame.org> E-mail info@umigame.org

